



2023

今年もよろしくお祝い申し上げます

理事長挨拶

新年のご挨拶を申し上げます。

ぱれっとは、今年で創立40年を迎えます。ぱれっとつうしんでもお伝えしてきていますが、50年を見据えてこの先の10年のビジョンを描くテーマでステークホルダーと共に勉強会を開いてきています。とりわけ「暮らし」をテーマに特化した際、入所施設から地域生活への移行を強く打ち出している国の政策に対し、グループホームが「自立」のためのゴールとなっています。暮らしの新たな選択肢として、障がいのあるなしにかかわらず一つ屋根の下でお互い自然な形で声を掛け合う「ぱれっとの家 いこっと」を立ち上げたのが13年前です。人間関係が希薄な世の中の暮らしに対し、人と人との豊かな関係づくりができる拠点としたい思いがそこにはありました。

共同生活における人間関係の難しさはけっして障がいのある人に限ったことではなく、障がいのない人においてもお互い窮屈さを抱えて暮らしているのが実情です。いこっとで理想とする暮らしの実現には、自分らしい生き方の創造に向けコーディネートする仕組みづくりが必要になってきています。障がいのある人の家賃の低廉化や安定した入居者確保のために*住宅確保要配慮者を対象とした専用住宅への移行、公的資金の活用や持続可能な経営方針を立てる目的で*居住支援法人化の検討に入りました。

ぱれっとの勉強会では「自立」をテーマに、障がいのある人の暮らしの在り方について、理事・スタッフ・親・ボランティアと共に活発な議論を展開してきています。彼らの自立を考えることで10年後のぱれっとのビジョンを描くことにつながって行くものと考えています。この先障がいのある人の暮らし方はどうなっていくのか、勉強会を通じてぱれっとの未来像と障がいのある彼らの豊かな暮らしを考えていきます。

本年もスタッフ一丸となって本来事業を進めて参ります。

皆様からの変わらぬご支援をどうぞよろしくお祝い申し上げます。

（認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭）

*居住支援法人・住宅確保要配慮者

国土交通省ホームページ <https://www.mlit.go.jp/index.html>

○住宅確保要配慮者居住支援法人の概要をご覧ください。





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局▶

あけましておめでとうございます。昨年は「オンライン」「リモートワーク」という新たな仕事のスタイルがすっかり定着した年となりました。内部の会議などは少しずつ対面での開催に戻りつつありますが、大勢の人たちが集まるようなシンポジウムや、ボランティアの事前レクチャー、「ぱれっとの家 いこっと」の内覧に至るまで、このスタイルでの対応はすでに常識になりつつあります。障がいのある人たちとの対面活動である私たちには完全リモートワークは縁遠いものの、オンラインという新たな文化によって得られた良い面も多いと思っています。全国、全世界の方々と早く、安く、広くつながれる、遅い時間でも、短時間でも会議設定できる、などもそのひとつ。もちろんコミュニケーションの基本は「会って話すこと」というのは変わらず大事な柱です。そこは見失わず、こうしたツールをうまく使いながら時代に合った活動を進めていこうと思います。(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと▶

あけましておめでとうございます。いつもたまり場の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。昨年は、クラブ活動のサンシャインダンス、劇団レインボーともに公演の機会に恵まれ、開放日はなれでは遠出のプログラムも実施することができました。それぞれの活動が充実してきた分、ボランティアの皆さんや参加者の方々、応援してくださっている方々の支えがあって活動できているのだと身に染みて感じています。

今年は、開放日はなれの1日プログラム実施や各クラブ活動の公演、新参加者募集など、より活動の幅を広げていく所存です。そのためにも、参加者皆さんの声を“聴き合える”そんな場所にしていきたいと思っています。皆さまのご指導ご鞭撻のほど引き続きよろしくお願ひいたします。(職員 武井琴美)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと▶

明けましておめでとうございます。おかし屋ぱれっとは昨年2名の新スタッフを迎え、メンバー21名と共に新年を迎えることが出来ました。長かったコロナの影響はようやく出口が見え始め、販売機会が復活し、メンバーの出勤体制もようやく元通りの週5日に戻ることができました。そうした中、皆が体調を大きく崩すことなくここまで来られたことに胸をなでおろしています。支えてくださった皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。さて、個々のペースに合わせた多様な働き方を提供するため2013年に開設した工房ぱれっとも今年10周年を迎えます。開設当時の経緯を知るスタッフやメンバーは数えるほどになりました。「おかし屋ぱれっと」と「工房ぱれっと」、両輪で進んでいく意味を、改めて皆さんと考えて行きたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

(所長 玉井七恵)



えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

明けましておめでとうございます。昨年は、ぱれっとホームでは新型コロナウイルスが猛威を振るった年でありました。えびすホーム中心に7月にクラスターがおき、とても大変な時期がありましたが、現在は皆さん回復されて落ち着きを取り戻しております。また昨年は、皆さんの外出の幅も広がってきているように感じております。「通所先の日帰り旅行に行ってきました」という声や、「カラオケ行ってきました」という声も聞きました。ホームでは食事は2グループに時間を分けておりますが、誕生会の時は皆さんで集まって開いております。そして、2022年度はしぶやホームに1名の入居者が入りました。新しい仲間が増えることでまたホームの雰囲気が変わりました。ぱれっとホームでは入居者の皆さんが何気ない毎日を安心した気持ちで過ごせるようにしていきたいと思っております。

(施設長 中本真一)

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ) ▶

新年のご挨拶を申し上げます。昨年6月にモンゴル国障がい児者支援団体 APDC へ JICA 青年海外協力隊で派遣されている隊員がぱれっとで研修を行ないました。APDC では障がい児早期療育や就労前訓練、カフェやさをり織りなど就労場所確保に向けた事業を展開しています。また、ネパール・パタン CBR からも就労支援の指導要請が来ています。CBR とは、地域福祉を中心とした障がいのある子供を持つ家庭の発掘や幼児教育、就学、就労スキルのトレーニングを行なう活動です。おかし屋ぱれっとのノウハウをネパールにも活かせるか模索しはじめたところです。昨年7月には、現地スタッフとおかし屋ぱれっとの現場をリモート中継し実際に作業を見せながら、彼等が働く様子を実感し働く場のイメージづくりをしてもらいました。コロナ禍、本年もオンラインを中心に海外と連絡を取りながら活動を続けて参ります。

(PIJ 代表 相馬宏昭)

ぱれっとの家 いこっと▶

あけましておめでとうございます。いこっとの今年度の重点目標は「障がいのある人の入居1名を実現する」を掲げています。目標に紐づく大きなトピックは、国の住宅セーフティネット制度の登録を進めていることです。月1回ペースで開催している「いこっとサポットの会」では、国の制度を使い「障がいのある人、ない人が安心して暮らせる家」のあるべき姿を実現するための議論を続けています。引き続き、情報発信や外部の団体や有識者とのつながりをつくる動きの強化をしていき、より良い変化をつくる1年にしていきたいと考えています。

(いこっとサポットの会リーダー 黒澤友貴)